

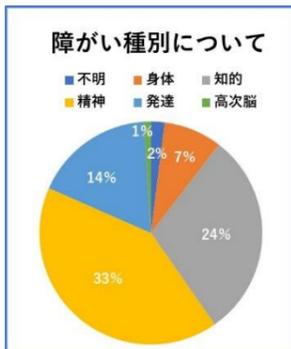
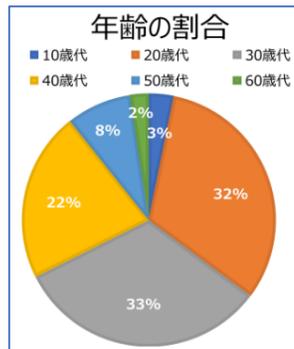
# 平成30年度 利用者アンケート集計結果

当センターの運営開始から12年が経過し、開設当初から関わり続けている方もいる一方、相談などの役割を終えた後、しばらくお会いしていない方も多くいます。また開所当初とは相談内容や状況も変化しています。

その様な中で、相談者の現状を再度確認させて頂くことで、皆さんが日頃感じている事柄を把握し、「仕事と生活」の両面についての状況とニーズを把握することを目的にアンケートを行いました。得られた情報を参考に、より充実したご提案できる様に研修を企画して参ります。今回はご回答頂いたアンケート結果の中から、企業で働かれている方々の現状と課題についての項目を中心にお知らせ致します。

## ※903名中 回答率33.6%※

今回のアンケートは903名の方にお送りし、255名の方に回答いただくことができました。また開設から12年経過したこともあり、143名の方が転居等の理由により所在不明となっていました。実質の回収率は33.6%となりました。



年齢の割合は20代30代が多く、特別支援校が増えたことや一般高校を卒業された方からの相談が増えているため、高校を卒業後に登録される若い方が多いということがわかります。

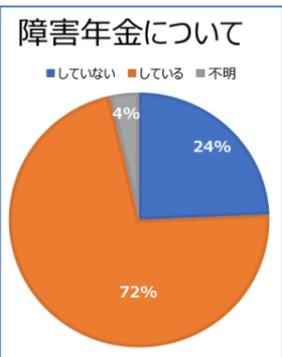
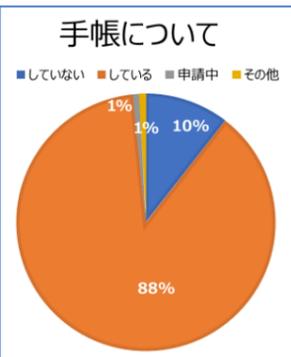
また、50歳代以上の方も1割いることから、多様な働き方についての相談が求められる時代を反映している結果となりました。

障がい種別については、身体7%、知的24%、精神33%、発達14%となりました。

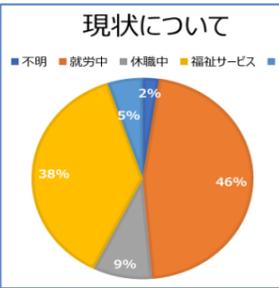
当センターは元々精神に障がいをお持ちの方を中心に相談頂く母体の法人として開設した経緯がありますが、最近では、様々な障がい特性をお持ちの方の相談窓口として活動しています。

手帳については、8割の方が取得されていることがわかります。

年金の受給については、72%の方が受給しており、その内就労中の方に関しては約60%の方が受給している状況です。



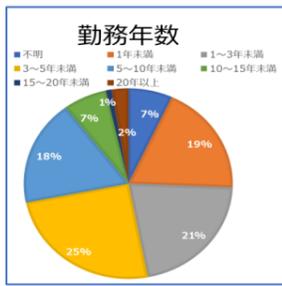
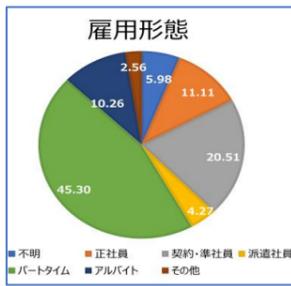
## ※就労状況について※



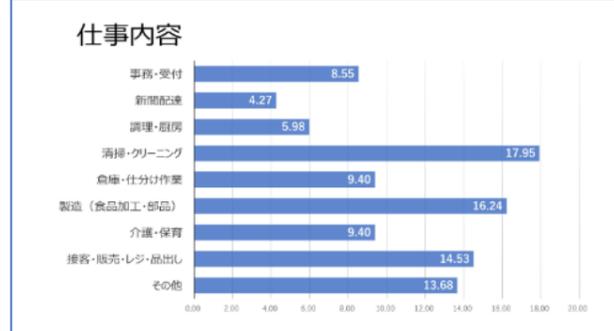
現在の状況については、約半数の方が就労中、約4割の方が障がい福祉サービス事業所を利用中です。

雇用形態（A型は除く）では、パート・アルバイトの割合が半数以上を占めています。ご本人の希望や体調と相談しながら、現在の雇用形態を選んでいる方もいる一方で、キャリアアップを希望されている方も多く見受けられました。

勤続年数を見ると5年未満の方が約70%を占めています。



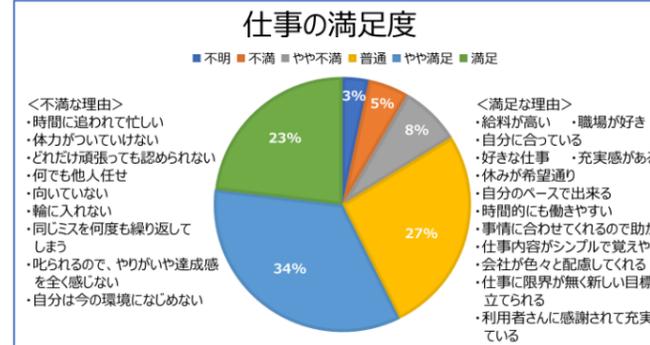
## ※仕事の中での現状と課題※



仕事に就く上で大切になってくるのがマッチングです。多種多様な求人（仕事内容）が出ている一方、障がいをお持ちの方が取り組みやすい仕事としては、自分のペースで進められる・シンプルで覚えやすいこと等がキーワードです。また、同じ仕事の中でも受ける配慮次第で、働きやすくも働きにくくなってしまいます。

仕事での悩みについては、3分の2ほどの項目が人間関係に関する事でした。マイペースにできる仕事であっても社内の人間関係はつきものです。

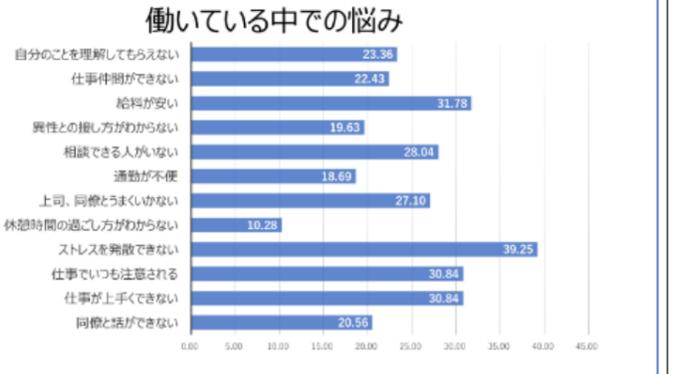
退職理由についても、仕事ができないからというのではなく、上司・同僚との関係が大きな問題になっています。



不安に感じることにあたっては、将来を見据え、収入面から転職を考えたり、転職先が理解ある会社とは限らないことなど、漠然とした悩みがあるようです。

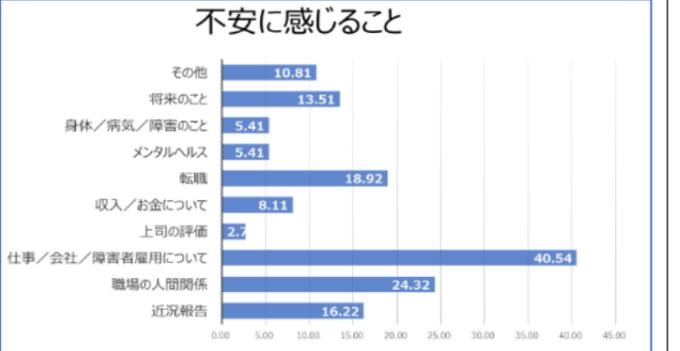
また、同じような境遇や不安を持っている人とのつながりがないことも、考えが広がらなかったり、情報を得られない一因になっています。

その取り組みの一環で、5年前から企業の人材育成とタイアップして進める「定着支援研修」を行っています。



次に仕事の満足度に関する内容です。

現在の仕事については満足度が高い結果が出ていますが、就職時と数年経った後ではご本人の目標やそれに伴う満足度は変わってきます。仕事をする中での役割やキャリアアップなど、ご本人のモチベーションへの働きかけが必要であると考えています。



## ※余暇活動について※

休日の過ごし方については、『TV・音楽・本・PC・ネット・ゲーム』を挙げている方が約7割を占めています。一人で休日を過ごしている方が多くいらっしゃる一方、定着支援研修などで実際に耳にしている内容としては、「嫌なことや仕事のストレスをその時だけは忘れていられるが、根本的な解消には至らないと感じている」という声も聞かれます。今やってみたいことの項目では、娯楽の充実やスキルアップを求めている方が多く、その中のやってみたい娯楽活動では、室内ではなく外で活動する過ごし方を求めている方が多いことがわかります。仲間と一緒にだからこそ楽しめる内容のものが中心になっています。

この結果を元に昨年度末には、横のつながりや食事の機会を作る目的として、大懇親会を企画するに至りました。

